

さいたま市長10月定例記者会見

平成28年10月13日(木曜日)

午後1時15分開会

○ 進 行 定刻となりましたので、ただいまから市長定例記者会見を始めさせていただきます。

それでは、記者クラブ幹事社の読売新聞さん、進行をよろしくお願いたします。

○ 読売新聞 10月の幹事社を務めます読売新聞と申します。よろしくお願いたします。

では、本日の記者会見内容につきまして市長から説明をお願いします。

○ 市 長 皆さん、こんにちは。

現在開催しております国際芸術祭「さいたまトリエンナーレ2016」は、市民が生活する都市を舞台に、「参加する」「ともにつくる」に力点を置き、市民とアーティストがともにさまざまなプロジェクトを繰り広げております。この機会に多くの皆さんに参加していただき、アートを体感していただければと思います。また、今週末から各区におきまして区民まつりが次々と開催されます。皆さんに楽しんでいただけるよう、各区で趣向を凝らしたイベントとなっておりますので、ぜひこちらにも足を運んでいただきたいと思います。

それでは、議題の説明に入らせていただきます。

市長発表：議題1 「J:COM presents 2016 ツール

・ド・フランスさいたまクリテリウムを開催します」

初めに、議題1、ことしで4回目を迎えます「J:COM presents 2016 ツール・ド・フランスさいたまクリテリウム」について説明をさせていただきます。

いよいよ今月の29日の土曜日、「J:COM presents 2016 ツール・ド・フランスさいたまクリテリウム」をさいたま新都心駅周辺におきまして開催いたします。ことしは、新たにスポーツ庁から後援をいただくことになりました。前回の大会同様に、J:COM、Jスポーツ、テレビ東京での放送のほか、テレビ埼玉やNACK5から事前告知番組も放送されることとなって

おります。

大会開催に当たりましては、プレゼンティングスポンサーでありますJ:COM様を初めごらんとおり多くの企業の皆様にご協賛をいただき、開催することができることになりました。このほかにも、オフィシャルサポーターを初め広報PRなど、企業、団体の皆様にご協力をいただいております。改めて感謝と御礼を申し上げたいと思います。

まず、コースにつきましては、昨年度と同じでございます。周辺の交通規制につきましては、8時30分から18時30分までとなっております。観覧エリアの開放につきましては、10時からとなっております。

出場する選手につきましては、9月29日選手発表会見でお伝えしましたが、ことしもそうそうたるメンバーが出場いたします。今大会には、ツール・ド・フランス2016で4賞ジャージを獲得した選手、マイヨジョーヌ、個人総合優勝のクリス・フルーム選手、またマイヨベール、ポイント賞を獲得しましたペーター・サガン選手、マイヨブラン・アポワルージュ、山岳賞を獲得しましたラファル・マイカ選手、マイヨブラン、新人賞を獲得しましたアダム・イエーツ選手がそろって出場することになっております。この4賞のジャージ全てがそろうのは本大会が初めてということになります。

今申し上げた4選手以外にも、第2回さいたまクリテリウムで1位となりまして、ツール・ド・フランス2016におきましても第4ステージで勝利を飾りました大変人気選手でもありますマルセル・キッテル選手、それから個人総合の2位でありましたロメン・バルデ選手が出場されます。また、日本人選手では、ツール・ド・フランスでことし2回目の敢闘賞を受賞しました新城幸也選手、それから別府史之選手など海外招聘選手、国内参加選手がそれぞれ7チーム26名ずつ出場することになっております。

女子選手につきましては、リオデジャネイロ・オリンピックに出場いたしました塚越さくら選手、與那嶺恵理選手、そして昨年のおさいたまクリテリウムにおきまして個人タイムトライアルレースで女子1位になりました細谷夢菜選手、そしてことしから新たに追加する男子のジュニアには、全国高校総体の男子ポイントレースで優勝しました浦和工業高校の中川涼選手などが出場する予定となっております。

また、パラサイクリング選手では、リオデジャネイロパラリンピックで銀メダルを獲得しました男子の個人ロードタイムトライアルC3の藤田征樹選手、それから女子のタンデム個人ロードタイムトライアルWBの鹿沼由理恵選手、田中まい選手のペアも出場することが決定しております。今大会も熱い戦いが繰り広げられ、皆さんに感動と興奮を届けてくれるものと期待をしております。

大会の前日には、午後1時30分からラフレさいたまにおきまして記者会見を行い、その後、午後3時から海外選手との交流会を予定しております。昨年は、市立浦和高校の弓道部の協力によりまして、弓道体験を実施しまして、選手たちに大変好評で、海外メディアからも注目されました。ことしは、さいたまスーパーアリーナ内で岩槻人形協同組合でありますとか県立岩槻商業高校、ハクビキもの学院等のご協力によりまして、選手たちに和服を着ていただいて、岩槻のジャンボひな壇に並んでいただくという事です。それから、餅つきなども体験いただくというプログラムを用意しております。

次に、レースの内容についてでございますが、13時10分からコース1周のタイムで競われますタイムトライアルレースを、海外招聘選手が7名、国内参加選手が7名、それから先ほどご紹介しました女子選手・男子ジュニア選手が7名、それからパラサイクリング選手7組8名で実施いたします。

そして、14時から、個人タイムトライアルレースに参加しなかった選手により、コースに設定されたポイントラインを通過した際の順位に従って得点が与えられるというポイントレース、7周走られまして、その総得点で順位を決めるポイントレースを実施します。

そして、15時から、海外招聘選手、また国内参加選手全員でコースを20周して競い合いますクリテリウムメインレースを実施することになります。

大会当日には、さいたま新都心駅周辺のコース以外でも大会を盛り上げるために、サテライト会場としまして、パブリックビューイングを5カ所で実施をする予定となっております。1カ所が東京スカイツリータウン・ソラマチ内にありますジェイコムワンダースタジオでございます。それか

ら、コクーン2にありますコクーンひろば、浦和駅東口の駅前市民広場の絆フェスティバル会場、鴻巣駅東口こうのすシネマ、そして大宮区民ふれあいフェアの会場でもございます大宮ソニックシティのイベント広場で開催されることが決定をしております。

ことしは、大会を盛り上げるさまざまな事前プロモーションも展開いたしました。その一つが「鶴・ド・フランス」でございます。きょうこちらに飾ってあるものでございます。さいたまクリテリウムをPRするさまざまなイベントを行いましたけれども、その中でご来場の皆さんにツール・ド・フランスの4賞ジャージの柄の折り紙で千羽鶴をつくっていただきました。この千羽鶴は、ツール・ド・フランス出場選手の安全と健康を祈念して、本大会開催期間中、フランスを回り、さいたまクリテリウム開催のため、ここにまた戻ってきたというものであります。

先日の出場選手発表記者会見では、ASOのマネジャーから、過去最も完走率の高い、完走者数の高い大会になったというお言葉もいただいたところでございます。

続きまして、さいたまクリテリウムを地域とともに盛り上げていこうということで、ことしは商店街連携部会をつくりまして、進めてきたものでありますけれども、さいたま市商店会連合会が実施しております「商店街活性化キャンペーン」とのタイアップ企画を10月10日から開始いたしております。

10月10日から17日の早期特典といたしまして、さいたまクリテリウムのチケット及びグッズが50名様に当たるキャンペーンを実施いたしております。また、1回の買い物で600円以上購入された方にクリテリウムのオリジナルステッカーでありますとか、あるいはコースターをノベルティーとして配布させていただきますとともに、商店街キャンペーンタイアップポスターを掲出していただきまして、大会のPRを図っていこうというものでございます。

続きまして、与野商店会連合会のご協力をいただきまして、「さいたま市内商店フランス関連商品販売&スタンプラリー」を10店舗で実施いたします。各店舗でフランスに関連する商品を販売し、スタンプラリーを実施するというものでございます。例えばどんなものがあるかという、「つる

っとフランス鴨せいろそば」など多少ユーモアを交えたものも用意してございます。スタンプを3つ集めると、先着でピンバッジ、ふせん、ステッカー、いずれかのオリジナルノベルティをプレゼントいたします。さいたま新都心駅改札前のさいたま新都心観光案内所で引きかえをさせていただくことになっております。

次に、大宮ナポリタン会の3店舗にご参加いただきまして、大宮ナポリタンとのコラボメニューキャンペーンを実施いたします。これは10月1日から既にスタートしていますが、10月31日までを予定しております。フランスや自転車にまつわる期間限定のオリジナルナポリタンを店舗で販売していただいて、ご注文されたお客様にはオリジナルのステッカーをプレゼントするというものでございます。

また、フランス本大会期間中の7月、銀座のハンズ・エキスポにおきまして期間限定でオープンし、好評を博したツール・ド・フランスさいたまクリテリウムカフェが9月7日から大会の当日まで、さいたま新都心のハンズカフェ コクーンシティ店にオープンしております。さいたまクリテリウムの雰囲気あふれる店内で期間限定のオリジナルメニュー、あるいはオリジナルグッズの販売を行っております。

そのほかに、大会当日まで「ボン・ティガー」浦和店、与野店、そして岩槻区にあります「とわそりーぬ」におきましてもさいたまクリテリウムカフェを展開しております。地域の商店会の皆様とともにさいたまクリテリウムを盛り上げていきたいと考えております。

次に、昨年人気のありました「弱虫ペダル」とのコラボレーションがことしも決定いたしました。配布した資料のように、全8商品が決定いたしました。大会当日、ファンパークで販売いたします。大会終了後、オフィシャルオンラインショップにて、会場限定商品を除き、受注販売を行います。この「弱虫ペダル」ですが、コミックスは現在46巻まで発売されているということでありまして、人気アニメとのコラボレーションでさいたまクリテリウムを盛り上げていきたいと考えております。

また、大会当日は、会場周辺におきましては、自転車まちづくり推進課主催の「2016サイクルフェスタ」でありますとか、あるいはさいたま観光国際協会主催の「2016さいたまるしえ in さいたまクリテリウム」

を開催いたします。

大会開催まで残すところ2週間余りとなりました。万全の体制で臨むことはもちろんですが、本市の魅力を積極的に情報発信し、大会の成功に向けて全力で取り組んでいきたいと考えております。

議題1については以上でございます。

市長発表：議題2「目白大学との包括連携に関する協定の締結について」

続きまして、議題2「さいたま市と目白大学との包括連携に関する協定の締結について」説明をさせていただきたいと思っております。

目白大学とはこれまで個々の事業での連携を行ってまいりました。それをさらに組織的な連携強化へと発展させるために、同大学との間で包括連携協定を締結させていただくことになりました。本市と大学が包括連携協定を締結いたしますのは、埼玉大学、聖学院大学に続き3例目ということになります。

それではまず、今回協定を結ばせていただきます目白大学の概要について簡単にご説明させていただきます。

目白大学は、大正12年に創建された研心学園を起源とする、学校法人目白学園を母体として平成6年に埼玉県岩槻キャンパスに開学をされました。そして、平成12年、東京都に新宿キャンパスを開設して6学部16学科7研究科を擁する総合大学でございます。

これまでさいたま市と目白大学とは、岩槻区を中心にさいたま市全域で医療、健康、福祉をはじめとした幅広い分野において連携を行い、実績を積み重ねてまいりました。これまでも目白大学とは、例えば本市と共催で平成18年度から毎年行っておりますけれども、医療系の学部を有する大学の特色を生かしました健康づくりに関する市民向けの公開講座などを開催していただいております。

また、ことしは選挙権年齢が18歳以上に引き下げられたことを契機としまして、若い世代に選挙の大切さを知ってもらうために、目白大学社会学部メディア表現学科の学生と共同で選挙啓発動画などを作成するなど、さまざまな連携事業を実施いたしております。

このような連携実績を積んでいく中で機運も高まりまして、10月

28日に目白大学と包括連携協定を締結することとなりました。今回の協定では、目白大学との連携を強化し、本市域をフィールドに、大学が持つ専門的な知識やノウハウを活用し、特に医療、健康、福祉など幅広い分野において包括的な連携・協力を行うことで、地域社会の発展、また学術の振興に寄与することを目的としております。

次に、包括連携協定の内容についてでございます。

目白大学の岩槻キャンパスにつきましては、保健医療学部、看護学部があり、医療現場にとどまらず、福祉分野や健康分野などで活躍できる人材育成にも力を入れていると伺っておりますので、こういった大学の特性を生かしていくとともに、大学生の新鮮なアイデアを活用させていただきたいということで、医療、健康に関することであるとか、福祉、子育て支援に関すること、地域の活性化、情報発信に関することなどを総合的に連携していくということで締結をさせていただきます。

本包括連携協定の締結後、具体的には連携の第1弾として、10月30日曜日開催の「いわつきマルシェ in 目白大学」におきまして、今さいたま市は健康都市づくりということでスマートウエルネスの取組をやっておりますけれども、健幸ブースを設けまして、来場者を対象に目白大学の保健医療学部や看護学部の学生、教職員に(ストレスチェックストレッチ体験)、遂行機能の検査、ストレスチェックなどをさせていただきます。

さらには、本市の健康増進課との協働で、体組成計を用いた体脂肪率でありますとか、あるいは内臓脂肪レベル、それから基礎代謝の測定などもあわせて行っております。

また、11月12日から13日の両日にわたって行われます「さいたま国際マラソン」では、理学療法学科の学生、教員が一般参加者を対象にしまして、ストレッチなどのコンディショニングを行っていただくことになっております。

協定の締結式でございますが、10月28日金曜日午前9時半から10時ということで、市役所本庁舎2階の特別会議室で行いますので、取材のほうをよろしくお願ひしたいと思います。当日は、目白大学の佐藤学長にお越しをいただきまして、協定締結に対する考え方などをお話ししていただく予定となっております。

今回の目白大学との包括連携協定の締結を契機に、目白大学とさいたま市が相互に協力し、さらなる連携事業に取り組み、より一層の市民サービスの向上、あるいは地域活性化などに努めてまいりたいと考えています。

議題2の説明は以上でございまして、私からの報告は終わらせていただきます。

議題1に関する質問

○ 読売新聞

ありがとうございます。

市長からの説明について質問をお願いします。ありませんでしょうか。

では、幹事社から1点伺ってもよろしいでしょうか。さいたまクリテリウムのお話いただいた内容で、商店街との連携がいろいろと進んでいるようなんですけれども、さいたまクリテリウムというイベントをどのように地域に波及させたら成功と言えるのか、その地域のあり方というか、理想像について改めて伺いたいと思います。

○ 市長

さいたま市としては、スポーツを1つは地域活性化であるとか、あるいは経済の活性化に生かしていこうということを考えて取り組みを行っております。そのための組織として、さいたまスポーツコミッションを立ち上げて、実証しているところでありますけれども、昨年も約10万人の方々に来ていただいて25億（~~7,500~~3,500）万円という経済波及効果を上げることができました。約10万人ぐらいの方々に来ていただいている中で、より地域の魅力を知っていただいたり、おいしいものを食べていただいたり、いろいろなものを買っていただいたり、そういう機会をできるだけ提供して、その中で地域経済の活性化に生かしたいという思いでやっているわけではありますが、昨年以上の経済波及効果につなげていければと、今回は特に専門の部会を設置して、地元の商店街の皆さんとの連携を強化させていただいたところでございます。

○ 読売新聞

ありがとうございます。

ほかにありますでしょうか。

○ 日本経済新聞

今のお題にちょっと関連して、商店街で参加されているところというのが新都心からかなり離れたところもホームページ等で拝見すると入っているのですが、そういうところ、なかなかイメージというか、そこに人が来るというのがぱっとイメージできないところもあるんですけれども、

その辺というのは市内の方たちにも目を向けてもらうみたいな、そういう狙いなんですか。

○ 市長 例えばクリテリウムカフェは当日までやりますけれども、それ以外は大体当日の前ということが中心になっておりますので、市民の皆さんにPRしていくということもありますし、また私も銀座のクリテリウムカフェへ行ったりしまして、自転車のファンがそこを目指してくるということがかなりあって、通常のお客さんとまた違う客層の方に来ていただいたということをお店の方からも聞いたりしていますので、そういう効果をぜひ地元のお店等にもつなげていきたいと思っております。ですので、その日だけというよりは、その日の前も含めて、ある一定の期間の中で来ていただき、経済の活性化につなげていければという思いでやっております。

○ 朝日新聞 朝日新聞と申します。

今の関連でお伺いしたいんですが、今市長がおっしゃった経済効果というのは、前の期間も含めてイベントの一定の期間のことだと思うんですけども、このクリテリウムというものがさいたまにあることによって、もうちょっと長い期間、今後5年とか10年とか先にどういう市にとっていい効果がある、いい効果を望んでいるから、市長はクリテリウムをやっていらっしゃるのでしょうか。

○ 市長 このさいたまクリテリウムについては、もちろん自転車の文化を広げていく、また普及させていくということもありますが、さいたま市は今、自転車のまちづくりというのを強力に推進しています。「さいたまハート」という計画を現在つくっております、「たのしむ」、「まもる」、「はしる」、「とめる」の4つの視点から総合的な自転車のまちづくりを進めています。

なぜ自転車かという点、さいたま市は政令市の中でも自転車の保有率がトップであったり、逆にもう一方で自転車の事故の件数などは上位にであったりということもありますし、また自転車が経済的にもいいし、環境にも、あるいは健康にもいいし、これからさいたま市が抱えていくであろう人口減少、あるいは少子高齢化の中で抱えていく課題をこの自転車のまちづくりを進めていくことで、ある程度解決につながっていくような、そういった役割を果たしてくれるだろうということでやっております。そして、ツール・ド・フランスさいたまクリテリウムはその「たのしむ」の中に位置

づけておまして、単に自転車を移動する手段ということだけではなくて自転車を楽しんでいただくことによって健康あるいは環境にもいいということと同時にご理解いただくことが必要と思っております。

そしてまた、「はしる」というところで言いますと、10年間で200キロメートルの自転車レーンを整備するという目標の中で、ことし既に3年目に入らせていただいて、毎年20キロ以上整備をしておりますので、安全にそして快適に自転車に乗れる環境づくりもあわせてやっというと考えております。

また、「まもる」ということについては、さいたま市内の小学校4年生全員に子供自転車運転免許をとっていただいて、安全に乗っていただく、ルールを守る、マナーを守る、自転車については、さいたま市も自転車の事故が非常に多い都市でもありますので、そういったことを通じて啓発をしているところであります。

さらに、こういった非常に国際的なイベントでありますので、都市イメージをアップさせるということにも当然つながってくると考えておりますし、また先ほどお話がありました経済効果、約10万人の方々という大変たくさんの方々がこのさいたま市に来ていただく非常に大きなチャンスでもありますので、その際にさいたま市のよさや経済的な効果につなげていきたいと考えております。そういう意味では、総合的に捉えているということでご理解いただければと思います。

- 朝日新聞 続いてクリテリウムの話ですが、今約10万人とおっしゃったんですけど、それは外国からの観光客も含まれるのでしょうか。
- 市長 外国人の観光客も含まれていますが、そのうち何人が外国人かというのまではわかりませんが、選手、それから選手のご家族、マスコミ、メディア関係の方々もいらっしゃいますし、お客さんとしてもかなりいらっしゃっていますけれども、そのうち何割ぐらいかというところまでは現時点では特定できておりません。
- 朝日新聞 これまでだと、市内向けというか、そういった外国人に対してのPRとかという面は余りリリースとかでもなかったかなと思うのですが、その辺の対策というか、しているものってあるのでしょうか。
- 市長 昨年は台湾とかでシティーセールスをやったりしていたと思うのですけ

れども、余りまだ十分ではないところもあるのも確かだと思っております。今アジアについても自転車のブームといいますか、そういったものも少しずつあるようでありますので、アジア向けであるとか、そういったことも含めて、今後インバウンドを呼び込むという意味でも少し強化をしていく必要があると思っております。

また、7割ぐらいの方が大体市外から来ていらっしゃいます。特に新幹線もとまったりもしていますので、さらに広域的にお客さんを呼び込んでいきたいと。市民の皆さんにももちろんたくさん見ていただきたいですけれども、そういった観光客であるとか、あるいは外国人観光客にもよりたくさん来ていただけるような大会に成長させていきたいと思っております。

- 事務局 先ほどの海外向けのPRということでございますが、本年度7月4日にツール・ド・フランス本大会におきまして、第3ステージにおいてこちらの鶴のほうをASO側にプレゼントするところを世界に発信してまいりましたので、それをPRさせていただきたいと思えます。

幹事社質問：トリエンナーレ開幕を受けた感想について

- 読売新聞 ほかにないようなので、幹事社として代表質問させていただきます。
9月24日にトリエンナーレが開幕して3週間余りたっていると思うのですけれども、市民とつくる、市民が参加する芸術祭ということで目標にされているのですけれども、開催状況はいかがでしょうか。

- 市長 それでは、幹事社のご質問にお答えしたいと思います。
これまで準備に3年ほどかけてまいりましたけれども、実行委員会に参加をいただいております経済界、それから文化芸術団体、教育界の皆様を初め、会場施設をご提供くださった皆様方、そして市民の皆様のご支援、ご協力をいただきまして、9月24日に開幕を迎えることができました。大変感無量という思いが現時点での偽らざる気持ちでございます。この場をおかりしまして、改めて関係の皆様方に、また市民の皆様方に御礼を申し上げます。

開幕からちょうど20日ほど過ぎましたけれども、開幕前後の週は雨に見舞われまして、ご来場、ご鑑賞の方々にもご不便をおかけしたと思います。ようやく天気も秋らしくなってきましたので、より多くの方々

にお越しいただき、芸術の秋を楽しんでいただきたいと思います。

開幕直後から報道各社の皆様方にもたくさんご紹介をいただいたこともあって、特に週末には多くの方々にご来場いただいております。79日間と長丁場ではございますので、イベントを含め、開催のみならず展示作品などを積極的にご案内して、多くの方々にお越しいただけるように積極的にPRしていきたいと考えております。

幹事社質問に関する質問

○ 読売新聞

ありがとうございます。

幹事社質問に対して質問がある方は。

今の点に関して、開幕から20日余り過ぎたわけですがけれども、具体的に始めてみて、こんなところはよかったという部分や、あとまだ途中ではありますけれども、現状こういった課題が見えてきたという部分がありましたらお聞かせいただけますでしょうか。

○ 市長

やはりスタートする前のことについて言うと、PRが必ずしも十分でなかったという反省点もございます。それは、さいたまトリエンナーレの作品のほとんどが今回のトリエンナーレに向けてつくっていただいたということもあって、どういう作品が出るということについてお知らせすることがなかなかできなかったし、それを説明しにくかったというところがあって、なかなかうまくいかなかったという点は、これは私どもも感じているところであります。その中でスタートしまして、作品がそれぞれできてきましたので、またマスコミのメディアの皆さんにも大変丁寧に報道いただいたり、作品のことなどについてもご紹介をいただいたりしておりますので、その後知っていただいた方々も参加をいただいて、作品に対する評価も上がったりしている部分もありますし、もう一方で、運営している中で、通常そういったアート作品が置いてある場所ばかりではありませんので、その中で通行への支障であるとか、もう少し周辺の住民の皆さんに配慮したほうがいい点であるとか、そういった課題などについては日々把握をし、またそれを改善しながら進めているというところでございます。

いずれにしても79日間という長丁場でもございますので、また79日間、全日程展示されているもの、イベント的にやられるもの、期間限定でやられるものと、いろいろなタイプの作品がございますので、私た

ちとしてはタイムリーにしっかりと皆様にお伝えをして、そして来ていただけるということが重要だと思っておりますので、引き続きPRについては全力を挙げて取り組んでいきたいと思っておりますのでございます。

私も幾つか作品を見せていただきまして、東武線を使ったサイタマ・フロンテージなどの作品を8割ぐらい見ました。非常に力作であったり、大変おもしろい視点があったり、それぞれさいたまを随分アーティストの皆さんが意識をしてくださって、その中でいろいろなことを発想され、想像されて作品づくりに取り組んでくれたということは私なりにすごく感じたところでもあります。

今後このさいたまトリエンナーレをお知らせするとともに、多くの皆さんに参加をしていただく場面もまだまだたくさんございますので、そういったところにも参加をいただき、みんなでつくり上げる芸術祭にしていきたいと思っております。

○ 読売新聞 ありがとうございます。

あと、PRについて、恐らく市長が一生懸命PRをしたいというふうに抱いていらっしゃる思いと、現場の実際の作業がうまくかみ合っていないように、ちぐはぐなところが見受けられたので、その辺改善していただければなというふうには感じています。

○ 市 長 現場の中ではいろいろな細かいことも含めて、課題はもっとたくさんいろいろとあろうかと思っておりますので、順次しっかり対応して、解決をしながら進めていきたいと思えます。

○ 読売新聞 ほかにありますか。

○ 東京新聞 東京新聞です。

今の関連なんですけれども、トリエンナーレで来場者数を30万人目標にしたかと思うんですが、今現在で何か中間の数字のようなものは出てくるのでしょうか。

○ 市 長 この来場者数についてでございますけれども、会場全体の集計は今後取りまとめることとなりますけれども、旧民俗文化センターとか旧部長公舎とか、主立ったアートプロジェクトの会場、あと主立ったイベントだけの合計で言いますと、10月10日現在でおおむね3万人を超える方々に来ていただいておりますので、若干天気が悪かったことなどもありますけれど

も、おおむね順調に推移していると思っております。

- 東京新聞 追加で。それは、だんだん増えているという感じなんですかね。
- 市長 そうですね。大体トリエンナーレの特徴としては、ほかのトリエンナーレもいろいろ調べているのですけれども、やはり後半にだんだん増えてくるという傾向もあるようですので、ロコミとか、その後いろいろ行かれた方々の声を聞いてまたアクションを起こすという方々も多いようでもありますので、どちらかというと先にみんな駆けつけるというよりは、後になると駆け込みで入ってくるという傾向が強いように聞いております。

ただ、いずれにしましても、できるだけたくさんの方々に知っていただく、広報していくということが何よりも重要なことだと思っておりますので、引き続きしっかりとPRをしていければと思っております。ぜひご協力よろしく申し上げます。

- 朝日新聞 今のPRに関連してなんですけれども、先ほど市長、新作なので、なかなかどういうものがあるかというのを事前にお伝えしにくいところがあったというお話だったのですが、中身についてはたしかにおっしゃるとおりだと思うんですけれども、そもそもさいたまでトリエンナーレというものを今年初めやるんだということに関しては、事前のPR、市内外についてのPRというのは行き届いていらっしゃったと思っていらいっしゃいますか。もしそうでないとしたら、何が原因だったというふうにお考えでしょうか。

- 市長 市内外でトリエンナーレがあるということについての広報は、これは必ずしも十分ではなかったと認識をしております。もちろん市内だけではなくて、都内で記者会見をさせていただいて、どちらかというとアートや文化という領域のメディアの方々に集まっていってお知らせをしたりということなどはやってきてはいると思いますけれども、これはイベントでもそうだったと思いますが、一般の方々向けの認知度ということでは極めて低い状況が、これは都内もそうでしょうし、市内もそういったところがあったのではないかと考えておりますし、もう少しより市民向けにわかりやすくお伝えをしていくということを反省点として、これからはもっとしていかなければいけないと思っております。

ただ、今、市民プロジェクトなどについても、いろいろな形で参加をしたい、協力をして盛り上げたいというようなお声であったり、あるいはボ

ランティアの方々も非常に今増えてきておりますので、ややそういった部分での遅れはあるかもしれませんが、ようやくここへ来て理解とといいますか、知名度が上がってきているのかなと思っています。

○ 読売新聞 ほかによろしいでしょうか。

それでは、そのほかに質問がある方はお願いいたします。

その他：待機児童対策について

○ 埼玉新聞 埼玉新聞と申します。

待機児童対策についてお伺いいたします。今月の21日からだったと思いますが、来年度4月以降の認可保育所の1次申し込みが始まるかと思いますが、その受け皿となる施設整備の状況ですとか、保育士の確保の状況について教えていただけますでしょうか。

○ 市 長 まず、保育所の整備につきましては、当初予算の中でも1,302名定員を増員することで予算をつけさせていただき、そして9月の補正予算におきましても、賃貸で4月に間に合うように実施し、新たに7カ所400名の定員を増やし、1,702名の定数増で今年度実施していこうということで整備をし、定員を増やしているという状況がございます。

その中で、またハード面だけの整備だけではなく、ご案内のとおり保育士の確保というのも、これは大変大きな課題でございますので、今年度から東北等の保育士を養成する学校を100カ所訪問して、さいたま市の保育所へ就職というか、働いていただくというようなキャンペーンもやらせていただいておりますので、現状として何がどのくらいできたというところまではまだ把握ができておりませんが、そういった取組をしながら、ハード面の整備と保育の質をあわせて十分に確保していくということをやりながら、来年度に向けての待機児童ゼロの実現に向けてしっかりと進めていきたいと思っております。

○ 埼玉新聞 すると当初どおりというか、プラス400も含めて、計画は順調に推移しているということでよろしいでしょうか。

○ 市 長 そのように考えております。

○ 埼玉新聞 関連してなんですけれども、改めましてさいたま市では、まず待機児童の数をゼロにするという目標なんですけれども、来年4月1日に向けて、市長の決意をいま一度聞かせていただけますでしょうか。

- 市長 保育所のニーズが社会環境の変化、あるいはライフスタイルの変化も含めて大変高くなっておりますので、来年の4月での待機児童ゼロを目指していこうということで、ここ数年、計画以上に定数を増やしながらいま進めてまいりましたので、何とか実現していきたいと思っておりますし、数をつくるということだけではなくて、あわせて保育の質を高めて、そして安心して子供預けられる、そして働けるという、そういう環境づくりをしっかりとしていきたいと思っております。

いずれにしても、一人でも多くの方が保育所に預けたいという方は預けられるような、そんな環境づくりをしていきたいと思っております。

その他：市民活動サポートセンターについて

- 毎日新聞 毎日新聞です。
- 浦和の駅前にある市民活動サポートセンターのことについて質問をします。サポートセンターに関しては、1年前に市議会のほうで、指定管理者制度を取りやめて、新たな管理基準をつくるという条例案が可決されたと思うんです。それから、ちょうど1年たちまして、ことし8月、利用者懇談会で、新しい管理基準の案が示されたと聞いております。改めてこの新しい管理基準の意義についてご説明をお願いします。
- 市長 基本的に、現状では余り細かいお話はできませんけれども、市民活動サポートセンターは、市民と協働でまちづくりをしていこうという趣旨の中で、市民活動がしやすい環境をしっかりとつくっていくという方針のもとに今進めております。
- その中で、利用者の皆さんに十分ご理解をいただき、ご協力いただけるような形のものにしていく必要があるかと思っておりますので、その辺についてはよくキャッチボールをしながらやっていこうということになると思います。詳細については、申しわけありません。現状としては、私も十分把握しておりません。
- 毎日新聞 今は、管理基準の案という段階ですけれども、今後運営者の協議会とか、その利用者の声を取り入れながら進めていきたいということですね。
- 市長 そうですね。本来の趣旨に沿った形で運営がなされるということが望ましいと考えておりますし、もちろん議会からもいろいろなご意見がございますので、そういったことも踏まえながら市民の皆さんが活動しやすい、

そんな関係づくりができるだけできるようにしていきたいと思います。

- 毎日新聞 今後のことになってしまうんですけれども、スケジュール感を伺いたいんですが、今回利用者懇談会で8月に案を示されて、今議会にはちょっとまだ出てきていないと思うんですけれども、12月議会などでその議会の声なども聞いていくということになるんですか。

- 市長 今後の具体的なスケジュールも現状では私ども把握しておりませんので、また後ほど担当のほうから、どういったスケジュール感かということは、またお知らせをさせていただきたいと思います。

(会見後追加：市民活動サポートセンターの管理基準等については現在作成を進めているところですが、直営での運営を行う中で新たに認識した課題等についても追加をしながら、今後も開催を予定している運営協議会や利用者懇談会、市民活動推進委員会においてさらに意見を伺い、それらの意見を踏まえて内容を精査し、より適切なセンターの管理運営に必要な事項をまとめた後に、議会へ御報告させていただきたいと考えており、具体的な時期については未定でございます。)

その他：造幣さいたま博物館について

- 埼玉新聞 埼玉新聞と申します。
10月の3日に造幣局のさいたま支局がオープンしたと思うんですけれども、そのとき市長もおっしゃられていましたけれども、特に博物館が観光拠点として、東京時代からかなり期待できると思うんですけれども、今後さいたま市として、例えば小中学生、毎年やっている遠足の行程に入れたりだとか、いろいろ具体的に博物館の利用の仕方というか、連携の仕方で何か思い描いていることがあればちょっと教えていただきたいと思うんですけれども。
- 市長 個々に、今後また検討していくことになろうかと思しますので、あくまでも私見ということでお答えさせていただくとすれば、1つは小中学校の遠足であるとか、あるいは社会科見学などにも活用ができるだろうと思いますし、あと市外の、あるいは国外の皆さんからの観光客の一つのルート、例えば造幣局と盆栽美術館と鉄道博物館とか、そういう比較的日本的な、そういう日本の文化を感じていただきやすいものの一つではないかと思しますので、そういう幾つかの施設と連携をしながらPRしていくというこ

とが重要と思っておりますので、これから観光の分野の担当者などにも、その辺はしっかりと検討の指示をしていきたいと思っておりますし、そういった活用ができればいいのではないかと考えております。

- 埼玉新聞 あのととき市長は博物館ごらんになりましたか。
- 市 長 途中までは。
- 埼玉新聞 その感想というか、心に残った展示物でも何でもいいですけども、どんな印象を持たれたかだけ、ちょっと。そんなに印象がなければ別にいいですけど。
- 市 長 お札も最先端の印刷技術を活用したということのようでありまして、貨幣についても研磨をしてつくり上げている技術としては日本の最先端の技術を使って、偽造を防止することももちろんですけども、つくられているものなので、ふだんは余りまじまじと貨幣を見たりする機会はないんですけども、ああいった場面で展示されて、そしてどういうふうにつくられているのかというお話を聞く中で、日本の技術力というものを改めて感じましたので、そういった部分も含めて、多くの人たちに知っていただくということが必要かと思えます。

また、東京オリンピックのときのメダルがあったと思いましたが、そういった歴史的な記念メダルなどもあって、少し懐かしいような感じもしましたので、これから東京オリンピックを控えて、また1つ、この造幣局の博物館があるということが、目玉の一つになってくるのではないかと考えております。
- 埼玉新聞 ありがとうございます。

議題 1 に関する質問

- 時事通信 クリテリウムに関連して、さいたま市内交流会ということで、招聘選手に和装体験、岩槻のひな壇、これ実際に並んでもらうということだと思っておりますけど、これの狙いと期待というのを少しお伺いしてよろしいですか。
- 市 長 これまで大体前日での交流会については、さいたま市のいわゆる観光的な資源と、あと日本文化のよさを発信していこう、体験をしてもらおうということをやってきておまして、今回は、その中で着物、和服という部分であったり、あるいはさいたま市の誇る伝統産業であり、また観光資源でもあります岩槻の人形ということの世界に発信をしていきたいと。

特に大会当日はもちろん、前日、メディアの方もそうなんですけれども、選手が個人的に撮っている写真が、その後ツイッターや、フェイスブック、いわゆるSNSに発信され、そのアクセスが非常に多くて、かなり多くの方々にこの日本のよさであるとか、さいたま市の魅力が伝わってくるというのがこれまでの一つの経験でもございますので、ことしは其中で岩槻の人形ということと、あと和服ということをテーマに取り組みさせていただくということになります。

○ 時事通信

その他：ビジット・ジャパン in さいたま 2016 について

インターナショナルの方々も同様な取り組みをされるということなんですけれども、これも同じような狙いという理解でよろしいんですか。

○ 市長

ミスインターナショナルの方々も去年来ていただいて、この方々もやはり自分たちでいろいろ写真を撮られたりして、その後SNSでご自分たちで発信をされて、たくさんの方々がまたフォローされたり、アクセスをされたりという状況がございまして、非常にPR効果が高いと考えております。

その中で、さいたま市での時間的な制約であるとか、場所的な制約などもあるものですから、その範囲の中でできるだけさいたま市らしさ、さいたま市の特徴が発信できるようにということと、あわせて日本のよさが発信できるようにという2つのテーマから、場所を選んだり、発信させていただいているということになります。

その他：浦和レッズについて

○ 毎日新聞

毎日新聞です。

浦和レッズの話を知りたいんですが、報道ベースではありますけれども、浦和レッズが日産の傘下入りに伴って、株式をグループ企業に売却するという話があります。5%の株主を保有しているさいたま市として、今の現状認識と今後の対応方針を知りたいと思うのですが。

○ 市長

ホームタウンでありますさいたま市としては、Jリーグの開幕からずっと浦和レッズを支援し続けてまいりまして、その中で今回親会社のところで、少し現行規約の中で問題点が指摘されました。私たちとしてはこれま

でどおりに活動を続けられるということが最も望ましいあり方であると考えておりますので、それをさせていただくために、さまざまな努力を浦和レッズのほうでしていただいているのだらうと思っております。

私たちとしては、浦和レッズという存在は本当にサッカーのまちとしてのシンボルでもありますので、また大切な存在であると思っておりますので、これからも浦和レッズがこれまでどおり活動ができるように、その環境をつくるために私たちとしてもしっかりと応援をしていきたいと思っております。

- 毎日新聞 じゃ、そうしますと、特にこちらから何か問題提起をしていくというよりは、レッズさんの意向をちょっと聞きながら対応していくということになるんですか。
- 市長 そうですね。基本的にはそういう形になろうかと思えます。
- 読売新聞 ほかによろしいでしょうか。
 どうもありがとうございました。以上をもちまして本日の記者からの質問を終了させていただきます。
- 進 行 以上をもちまして市長定例記者会見を終了させていただきます。
 次回の開催は10月27日木曜日、1時半からを予定しておりますので、よろしく願いいたします。ありがとうございました。

午後2時13分閉会